

Q. 11 話し合いを取り入れた授業を構想しています。どんなことに気を付けて指導をしていけばよいのでしょうか。

A. 話し合いは、1つの課題について、いろいろな意見を出し合い、友だち同士で探究していく学習活動です。個人で考えていたことを互いに発表し合いながら、自身の考えをより深めていくことができるため、学力の形成にたいへん有効な学習方法とも言えます。しかし、実際の授業では、子どもたち同士の話し合いがなかなかうまくいかないものです。子どもが話し合うことに慣れていないことや、教師が話し合いを取り入れた授業に慣れていないということが理由に挙げられます。話し合いの進め方や聞き方、話し方などについての基本的な指導が必要になります。

### ○話し合いで育てる力

学習指導要領解説には「各教科・科目等の指導に当たっては、生徒の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、(中略)言語活動を充実すること」(高等学校総則編 p. 70、中学校同 p. 52、小学校同 p. 52)とあります。

これは、言葉の力を高めると同時に、感性・情緒の基盤、コミュニケーションの基盤、知的活動の基盤として、すべての教科等で言語活動を進めていくことが求められていることを示しています。子どもにどんな力を付けるのかを明確にして、話し合いなどの言語活動を取り入れるようにしなければならないということです。

実際に、子どもは発表しながら、自分の考えを整理したり、友だちの意見を聞きながら、自分の考えとの違いに気付いたり、自分の考えを修正したり、新しい考えを発見したりといった活動を行っていきます。この学習過程が、思考力や表現力を育てることにつながっていくのです。

### ○話し方(説明・発表)や話し合いの進め方の指導

横浜国立大学附属横浜中学校では、どの教室にも下の枠内に示すような話型を掲示し、すべての教科等の授業場面で活用しています。多くの小学校でも同じような取組を行っていますが、中学校や高等学校でも参考になる実践です。学級全体での話し合いの場面だけでなく、小集団(グループ)での話し合い場面にも活用できます。

- 比較や分類(差異点、相違点、共通点、類似点)  
「同じ点は……で、違う点は……です。」  
「……と……は、…なところが似ていると思います。」
- 関連付け・関係付け  
「……に関連することとして……が挙げられます。」  
「……と……は関係付けることができます。」
- 規則性  
「……の結果から、……のような規則性を見いだせます。」 (以下略)

結論を先に言わせたり、考えた根拠を発表させたりすることも重要です。

型にはまった話し合いを求めるのではなく、話し合いを促すための方法を考えることがポイントです。

話し合いの場面では、子どもが司会をすることもあるため、子どもたちと話し合いのルールを決めておくこともよいでしょう。場合によっては、教師が子どもたちに話し合いを仕掛けたり、コーディネートしたりすることも必要になります。

## ○聞き方の指導

話し合いを上手に行う上で、聞き手を育てていくことも大切です。例えば、メモを取りながら話の要点を聞くこと、説明と質問を聞き分けること、話し手の気持ちを汲み取ること、自分の考えと比べながら聞くことなど段階に応じた指導をしていくようにします。

## ○話し合いの内容の吟味と指示の仕方

「今から何を話し合うの？」と子どもに聞かれることがあります。話し合いのねらいはもちろんのこと、話し合う内容を吟味する必要があります。特別に話し合わなくてもすぐに課題解決できるような内容について、延々と話し合わせてしまうことのないよう気を付けましょう。

また、何分くらい話し合うのかといった時間の設定、学級全体で話し合うのか、グループで意見を出し合うのかなどの話し合いの形態について、明確に指示することが必要です。【Q.16 参照】

## ○発言の取り上げ方

話し合った結果を次の学習活動に生かすことが大切です。そのために、グループでの話し合いで出てきた課題を学級全体で再度考えたり、各自でノートにまとめさせたりするなどの展開の工夫を行っていきます。ここでは、話し合いで出た意見を教師がどう受けとめるのかが重要です。教師にとって都合のよい意見だけを取り上げることをないようにしましょう。

また逆に、意見を自由に出し合わせて終了になってしまう授業もあります。ある児童生徒の意見に対して、他の子はどう思っているのかを問うたり、同じような意見を求めたりして、子どもたち同士の話合いを上手にコーディネートするのも教師の役割です。

子どもたちの話し合いを進めるためには、まず教師自身が聞き上手になりましょう。

【コラム(p.15)参照】

この項目については、『教員研修の手引』（島根県教育委員会）の学習指導のページも参考になります。

## ○話し合いの基盤づくり

自由に意見を言い合え、間違いが認められるような学級の雰囲気が話し合い活動の成立の絶対条件でしょう。「あの子は気に入らないから反対してやろう」といった気持ちの子がいれば、話し合いは成り立ちません。また、自信がもてなくて、「間違ったことを言うとみんなから笑われてしまうのでは…」といった心配する子はなかなか発言できないでしょう。子どもたちの思いに配慮しながら、同じ仲間として共に学習しているんだという、信頼関係を培っていくことが大切です。【Q.18 参照】

